



しずおかの きになる木の音 きいてみよう

キーワード

SDGs・森林環境教育・音楽・美術・野外教育・アルプホルン

○取り組んだきっかけ

静岡県は県土の64%が森林であり、SDGsの観点からも森林環境教育推進のニーズがある。そこで、すべての世代への「木育・森林環境教育」を目的として、短期大学部の三学科の特色を活かした地域貢献活動を企画した。

○活動の目的

①多様な年齢層に対する展開を試みることを、②音楽・美術・物語が融合した「木育・森林環境教育」の教材開発を行うこと、③開発した教材を、野外教育プログラムの中で試すこと、④参加する学生が、地域の自然環境への理解を深め、自らの専攻分野と地域社会との結びつきに気づく機会とすることを、本事業の目的とした。

○具体的な内容

1. 「気になる木の音きいてみよう！」静岡県立朝霧野外活動センター（2022年9月23日）

「とことこキャンプ」（主催：とことこキャンプ実行委員会（代表：遠藤知里）、連携協力：静岡県立朝霧野外活動センター）とジョイントする形で、年長児と小学1年生計20名を対象とした野外教育プログラムを実践した。学生21名がボランティアとして参加し、子どもたちの指導に当たった。

1) アルプホルンで木の音を聴く

本学音楽科のホルン専攻学生が、間伐材を活用した手作りアルプホルンの普及による森林環境教育に取り組んでいる辻井寛氏（静岡県志太榛原農林事務所森林整備課）の指導の下、アルプホルン演奏法について学んだ。また、アルプホルンでの即興演奏による楽曲制作（監修：井上幸子）を行った。

2) 子どもと一緒に木の音を聴く

「音の探検」では、本学保育科の学生が静岡県立朝霧野外活動センター内の森林環境を子どもたちと共に散策し、自然の中のさまざまな音を共に聴き取った。「みつけたおと、かいてみよう」（監修：木下藍）では、音を描いて味わい、森の中で感受した環境音を振り返った。

3) 語りと音

本学音楽科のホルン専攻学生が、子どもたちのためのミニコンサートを行い、フレンチホルンと物語による「となりのトトロ」（ナレーション：宮本淳子）と、上記1)のアルプホルン作品の演奏を行った。当初は野外で演奏予定だったが、雨天のため野外活動センター内のプラネタリウムで実施した。

（右）森の演奏会の様子（動画）



○期待される効果

学生の振り返りから、アルプホルンとの出会いによる驚きの体験（今回特筆すべき点として、わが国の森林の間伐材で作られた手作りの楽器であり、楽器製作者から演奏の手ほどきを受けている）、富士山の姿、森の匂い、雨の空気感のような、自然の中での素朴な身体感覚と結びついて生じた印象に基づく即興的制作の体験、子どもたちと活動を共にすることを通して子どもの視点を取得する体験から、学生が自分自身にとっての意味を生成している様子が察せられた。また、サービスラーニングの観点からは、本事業での体験を、学生が各々の専攻の学びに結びつけて捉えていることが、振り返りの記述から読み取れた。これを、今回の事業における主要な成果として位置付けたい。

井上幸子

短期大学部・音楽科

教授



連携先

静岡県立朝霧野外教育センター
静岡県志太榛原農林事務所森林整備課